和教時報
2021年10月15日（金）発行　第1978号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

衆議院選挙で
「国民のいのちと暮らしを守る政府」「教育にお金をかける政府」をつくろう！

和教組　執行委員長　武田　正利

一〇月三一日（日）に衆議院選挙が行われます。これまでの安倍・菅路線の継承ではなく、市民と野党の共同の力で政治の流れをかえて、私たち教職員の切実な要求や願いを実現させましょう！

政治の流れをかえる絶好のチャンス！

今度の衆議院選挙はまさしく、今後の日本の未来を左右するとても大切な選挙です。安倍・菅政権のもと、医療崩壊により、感染者が入院できず自宅で亡くなるという悲惨な状況が広がりました。一斉休校やGoToトラベル、オリ・パラの強行など、科学的知見を無視したコロナ対応、補償なしの自粛要請、生活困窮者の増大など、今の政治では国民のいのち・暮らしが守れないことが明らかになりました。

今度の衆議院選挙はこのような政治にストップをかけ、政治の流れを根本からかえて、国民のいのちと暮らし、平和と民主主義、子どもと教育を大切にする政治を実現する絶好のチャンスです。

政治がかわれば教育もかわる！

政治の最大の仕事は予算の配分です。四〇年振りに義務標準法が改正され、小学校での三五人学級が実現しましたが、欧米の先進諸国と比べてまだまだ低い水準です。日本の教育予算は対GDPに占める割合がOECD加盟国の中で最低レベルです。せめてOECDの平均まで引きあげれば三〇人学級や大学までの学費無償化が実現できます。

教育条件だけではなく、教育政策も政治がかわればかわります。企業のための人材育成、競争と管理の教育ではなく、一人ひとりの子どもたちの人格の完成をめざして、子どもも教職員もゆとりをもって過ごせる学校をつくりましょう！

私たちの一票で政治はかわる！選挙に行こう！

前回の衆議院選挙（二〇一七年一〇月）の投票率は全国で五四％（和歌山県五三％）で、有権者の約半数は投票していません。「どうせ何も変わらない」「自分には関係ない」と思っている方もいらっしゃると思いますが、この間、国民の声で「大学入試への民間英語試験導入」や「黒川検事長の定年延長」など政府が強引にやろうとした政策にストップをかけることができました。

私たち有権者の一票で政治をかえることができます。棄権せず、選挙に行って「国民のいのちと暮らしを守る政府」「教育にお金をかける政府」を実現しましょう！

ピンポイントスポット 396

九月中旬頃から、急にコロナ感染者数が減少しましたがその要因ははっきりとわかりません。海外の研究者の中にはウイルス自体が「弱体化」したとの意見もありますが、真相は不明です。

一方で、冬には第六波が懸念されています。インフルエンザ罹患時のタミフルのような「治療薬」の開発をはじめ、誰でも無料で予約なしで検査を受けられる「PCRステーション」の設置や医師や看護師、ICU病床の拡充が必要です。

そのための予算は、コロナ禍でも内部留保を上積みしている大企業や株などで大儲けをしている富裕層に対する課税強化で十分確保できます。要は政権がどの方向を向いて政治を行うかが問題で、総選挙では私たちの方を向いた政権を誕生させる絶好の機会です。

（T）

今年度もコロナ感染症の影響を受け、全体会は会場に集まる人数を制限し、オンライン併用開催としました。分科会は運営の方以外はオンラインで接続していただきます。「レポートの論議が深まらないのでは?」というご意見や、これまで学校を会場にしてきたことの意義や良さもあります。しかし、これまでの和歌山県での教育研究活動の積み上げや、人との繋がりがあるからこそ、オンラインという形式になっても和歌山県の教育の背景にある課題や学校の問題、教育実践において大事にしたいこと等を確認できるのではないでしょうか。

世話人会、臨時世話人会を経て、中止とした分科会もありますが、話し合われた貴重な意見を来年につないでいきたいと思います。

▲2019年教育のつどいより

以下に昨年度の様子や、実施する分科会の大切なポイントを事務局から紹介します。

国語教育

昨年は小学校から高校までのレポートが出て、活発な議論となりました。世話人の方々の年齢が似かよっているからか、オンラインなのに分科会の和気あいあいとした雰囲気が伝わってきます。「本当に勉強になった」という感想が寄せられました。

外国語教育（小学校外国語活動を含む）

授業づくりに悩んできたという方がレポーターとして手をあげて下さいました。小学校から中学校への引き継ぎも今後重要なポイントとなるでしょう。

社会科教育

例年、小学校から高等学校の各分野で多岐にわたる課題のレポートが出てきます。オンラインにする事で手元のパソコンから資料や写真などを容易にご覧いただくことが出来る良さもあります。

算数・数学教育

例年は教材・教具を持ち寄って使い方等を学ぶことができますが、画面を通して、どういった教材が出てくるかが楽しみです。途中から算数と数学の分野に分かれての実施を検討しています。

図工・美術教育

昨年は、五本のレポートがあり一日開催とし、子どもの作品を直に見ながら話合いが行われました。実技科目のICT教育の限界を探り、豊かな感性を育むための学習を深めたいと思います。

音楽教育

昨年はコロナ禍でのピンチを乗り越え、機器を駆使した実践レポートや、音楽の屋外活動には目から鱗が。和歌山大学から先生方のコラボ発表があり、遠隔から楽しい雰囲気を伝えてもらいました。

家庭科、技術・職業教育

情報教育の分野もあり話題が多岐に渡る可能性があります。全国の職業分野の高校の課題を聞き、学校統廃合問題を考えて行きましょう。

健康教育・性教育・食教育

今年は調理実習をオンラインで、という斬新な発表があるのでしょうか。この分科会から二〇二一年八月の全国教研に二本のレポートが出て、和歌山県で分科会をジャック!安全・安心の食文化をリードしていただきました。性教育、ICTの健康への影響も喫緊の課題です。

子どもの権利条約の息づく学級づくり 生活指導・学校行事・自主活動

全国的にコロナ禍で行事の見直しが余儀なくされ、生徒達から校則の見直しを求める声もあります。学校の教育課程の自主的編成権とは言うけれど、「職員会議では言えなかった…」という話が出るかも!?

登校拒否・不登校・ひきこもりを考える

昨年の一斉休校で生活のリズムが乱れたり、コロナ感染を心配するあまり学校

オンライン開催「未来をひらく」

に行くことをためらったりする子ども達。遠隔授業は学力を保障できるのか？今の学校教育に必要なものは何なのか。保護者の方からもお話をしていただきます。

平和・民主主義の教育

大学生、退職教職員のコラボ企画があり、和歌山に残されている戦跡をめぐり、レポートしてくれます。核兵器、環境危機、どれも子どもたちの未来に関わる問題です。

障害児教育

全国的にますます障害児学校や学級の過密が問題になり、設置基準を「実効性のあるものに」という声が広がっています。一昨年前の様に分散会に分かれて実施します。

特別分科会・学校事務

和教組の事務職員部が実施します。「育児を控えた新米パパに使える制度を紹介したい」というメールや電話での相談があり、学習しながら運動の一端を担って下さっていることに感謝です。

特設分科会・学力

やっぱり、「学力って何？」を深めましょう。毎年僅差にも関わらず繰り返される学力テスト。子どもの課題は明白です。毎年全国教研で発表してくれる方のレポートです。午後から開始ですのでそのまま参加して下さい。

特設分科会・ＩＣＴ教育について（仮題）

一月に出された中教審答申の中核は「ＩＣＴ教育の実現」。今や避けて通ることはできなくなっています。あらゆる角度からＩＣＴ教育を話し合ってみませんか？午後から実施します。

（注意）
レポートの状況をみて、他の分科会と共同実施する場合があります。運営の方、レポーター、一般の参加者の受付と分科会の詳細を確認し和教組ＨＰより一一月一日から行って下さい。

▲2020年確定交渉より

離れていても力は伝わる

確定交渉にオンラインで参加しよう！

和教組　書記長　川口　貴生

一〇月二六日から確定交渉が始まります。コロナ感染防止で会場参加の人数が限定されるため、今年もオンライン配信します（配信は一一月二日の第二回交渉からです）。ぜひ、支部ごとに集まりオンラインでご参加ください。

労働条件は、労働基準法に「労働者と使用者が、対等の立場において決定すべきもの」と書かれている通り、雇い主が一方的に決めるものではありません。そして、労働者の要求をまとめ、使用者と交渉するために労働組合があります。確定交渉は、和教組の労働組合としての役割が最も発揮される場であり、実際、ここで今年度の私たちの賃金や来年度以降の労働条件などが確定します。組合員一人ひとりの要求と運動の力が県教委や県当局を動かすのです。

今年は、人事院が月例給改定なし、一時金〇・一五月削減を勧告するなど、賃金面では厳しい状況です。しかし、コロナ禍で日々負担を強いられている仕事に見合った賃上げは、正当な要求であり、しっかりと訴えていきましょう。

「制度があっても使いにくい」育児に関する権利の改善、ハラスメント防止、再任用や臨時教職員の待遇改善も重要な課題です。

場所は離れていても力は伝わります。団結して要求を実現させましょう。

シリーズ 中教審答申

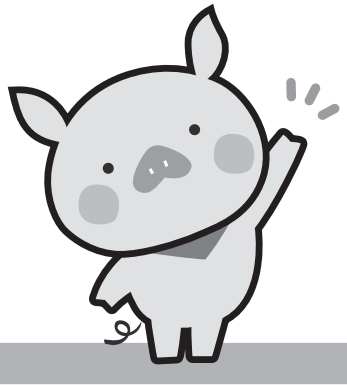
学校のゆくえ

POINT 4 少人数学級への言及はあるものの

答申は、コロナ禍での学校の実態について「一クラスあたりの人数が多い学校では、クラス全員で一斉に授業を行うとすれば、感染予防のために児童生徒間の「十分な距離を確保することが困難な状況も生じている」と認識を示し、「教室環境や指導体制等の整備を行うことが必要」としています。また、「『新しい生活様式』を踏まえた身体的距離確保に向けて」とし、少人数によるきめ細かい指導体制の検討を進めるとも述べています。これは私たちが長年取り組んできた少人数学級編成を進める運動が世論を形成し、学級編成基準を動かしたものです。

しかし不十分なところは、小学校の三五人学級が五年かけて段階的に行われることと、中学校や高等学校の少人数化や複式・特別支援学級には触れられていないことです。答申の中では少人数による学習の必要性は認めていますが、予算に対しての言及は一切ありません。

分散登校時には、教職員が子どもたち一人ひとりの顔を見たり、小さな声を聞き取ることができたりした経験から、誰もが少人数体制の良さを実感することができました。受け止める側の時間的なゆとりが必要であることは明確です。物理的な手立てを講じ、制約を作りながら安全への対策はできたとしても、子ども達が安心して通うためには、固まってしまった心を開くことができる大人の存在は不可欠です。コロナ禍で必要とされた学校教育の福祉的機能の側面にも対応することができる充分な人員が求められています。



日高支部講座

日高支部では障害児教育の実践相談や、授業づくりについて交流をしています。

実践相談は月二回開催し、実践上の悩みや不安について個別相談しています。

九月一七日の授業づくりの交流では、子どもたちの日頃の様子や出来事を話し合いました。一見マイナスに感じる子どもの言動を「自立活動」の視点で見立て、子どもにどう関わっていくかを考えました。

次回の授業づくりの交流は一一月一九日に予定しており「子どもの言動を多面的に見立てる」をテーマに交流します。

教弘の事業案内

福祉事業（教弘保険加入者に限定）
- 祝金の給付　　結婚　1万円　　出産　5千円
- 健康増進補助事業　人間ドック等の健康診断に3千円の補助
- マイカー購入補助　マイカーの購入に１万円の補助金
- 宿泊費補助金（教弘指定ホテル）　1泊3千円、年間2回利用可
- 誕生日（35歳、45歳、55歳）に記念品を贈呈

貸与奨学金事業（募集期間3月1日～ 4月20日）
- 無利子で奨学金（上限100万円）を貸与

教育研究助成事業（公募期間5月10日～ 6月末日）
- 現職教育活動支援
- 教育研究大会助成（近畿・全国大会）
- 教育サークル等助成

日教弘教育賞実践論文募集（毎年9月末締切）

公益財団法人　日本教育公務員弘済会和歌山支部
和歌山市小松原通3-20　☎073-421-7881